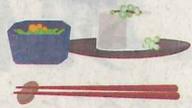


味な提言



読者の皆さま、お元気でしようか。このところ、行楽の季節らしく、穏やかな日差しに恵まれ、紅葉を見に出掛けるなど、体を動かすのに適した日が続きましたね。

皆さんは、健康運動指導士という資格を「存じでしょうか。一九八八(昭和六十三)年から厚生相(当時)の認定事業として、生涯を通じて国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、生活習慣病を予防し、健康を維持・増進するため、個人の体力に合った運動計画を立て、指導する資格のことです。二〇一七年十月一日現在、一万八千六百六十三人が登録しています。

私もこの資格を持っており、先日講習を受

⑥味の相互作用

けました。その中から国立長寿医療研究センターの土井剛彦先生の講義を少し紹介します。

日常生活で自立し、認知症と診断されていない方でも、客観的な



愛知学泉大家政学部准教授・管理栄養士

岡本 康子さん

認知機能が低下している軽度認知症(MCI)と推定される方が、高齢者の20%いるそうです。しかし、運動により、認知症発症を遅延させたり、予防

本日の一品



ロールサンドイッチ
〈材料 各1本分〉
ブルーベリージャム&クリームチーズのロールサンドイッチ用食パン1枚(17空)、クリームチーズ9空(1/2個)、ブルーベリージャム5空
アボカドディップ&クリームチーズのロールサンドイッチ用食パン1枚(17空)、クリームチーズ9空(1/2個)、アボカドディップ5空、洋ナシ1/6個(1人分、季節のお好きな果物で)

〈作り方〉
パンにクリームチーズをまんべんなくのばす。その後ジャムまたはアボカドディップを塗る。クリームチーズを広げて具をのせたりパンを手前か後ろを押さえながらのり巻きのようになじむ。両端を絞り、形がなじむまで15分ぐらい置く。

〈栄養量〉
ブルーベリージャム&クリームチーズのロールサンドイッチ 79kcal、タンパク質2.1空、脂質3.5空、炭水化物9.7空、塩分0.3空
アボカドディップ&クリームチーズのロールサンドイッチ 78kcal、タンパク質2.6空、脂質7空、炭水化物9.3空、塩分0.5空

できたりするかもしれない。それがコグニサーると甘みが増す、夏ミカといわれ、運動と酸味が減るなどには皆さ象として「変調現象」

た認知症予防を目的とした取り組みの総称です。二種類あるいはその力原産のミラクルフルーツを召上がったこと、同時に、脳の活動を活発にする機会をに食べた時に起こる味

増やし、認知症予防を「対比現象」レモンを食べると、酸味を感じません。これは、ミラクリンという

に予防できれば元気で長生きにつながりますね。では、本日の本題は(スイカに塩)、弱め味に変わってしまうの味の相互作用です。ス

られた場合を相殺現象です。ミラクリンのよ

うな物質を味覚変革物質といえます。ギムネ

マの葉に含まれるギムネマ酸も同様です。

前回取り上げた相乗効果は、同種の味を持つ成分を同時に食べた時、一つずつ食べた時より、味が増強される現象です。昆布のうま味(グルタミン酸ナトリウム)とかかつお節のうま味(イノシン酸ナトリウム)を十対一の割合で混合すると、昆布単独の時に比較しうま味が五倍に増強されるそうです。相互作用を上手に利用しておいしく食べたいですね。ではまた来週、お元気で。

異なる成分で味増強、相殺